

○○○○科 学習指導案

平成16年○月○日 (○) ○校時

○○○○科○年○組 ○○○○コース

(男子○名 女子○名、計○名)

指導者 群馬県立○○高等学校 教諭 ○○○○

指導場所 ○○○○教室

I 単元名 ○○○○ (指導項目名○○○○)

1 考察→できるだけ簡潔に具体的に述べる

(1) 教材観

○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○

○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

→理解させる内容、身につけさせる技能や態度は何かを把握する。

→理解させる内容、身に付けさせる技能や態度が生徒にとってどんな価値があるのかを把握する。

→単元を取り上げる根拠や必然性及び教育的効果等を学習指導要領等との関連を押さえて明らかにする。

(2) 生徒の実態

○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○

○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

→教材に関する事前の知識、理解、技能、興味・関心、意欲などの状況を把握します。(アンケート結果などがあるとわかりやすくなります)。

→学習過程において、どのような学習態度及び学習上の障害やつまづきが予想されるか。

(3) 教材の系統性

○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○

○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○

→生徒はこの単元を学習する前にどのような同系学習をしてきたか。この学習後にはどのように発展していくか、他教科・科目の領域における学習と本単元との関連がどのようになっているかを述べる(図示するとわかりやすい)。

2 指導目標→ここは単元の目標です(4つの観点をこの中から導き出します)

○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○

○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

→この単元において生徒に実現してもらいたい目標を観点別に析出して述べる。

→生徒の実態と学習指導要領の目標、内容の両者から指導目標を設定する。

→指導目標は、段階や質に応じて構造的に設定する。

→指導目標と学校の教育目標、教科目標との関連を確認する。

3 評価規準→ここは単元の評価規準です。 評価規準の内容と単元の指導目標とが関連しなければいけません。

関心・意欲・態度	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○ ○	語尾に注意
思考・判断	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○ ○	語尾に注意
技能・表現	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○ ○	語尾に注意
知識・理解	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○ ○	語尾に注意

→基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力の育成を重視する「新しい学力観」の趣旨を踏まえて、生徒が自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な面の評価を目指して、評価規準を設定する。

4 指導方針

- (1) ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○。
- (2) ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○。
- ・
- ・
- (n) ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○。

- 教材（題材、領域等）の特性や指導目標をもとに授業形態を決定する。
- 指導目標と生徒一人一人の実態とのギャップを埋める個別化の手段、方法などを決める。
- 下位群の生徒が活動できる場を設定する。
- 指導目標を達成させるため、個別指導や小集団指導をどう行うかを決定する。
- 教育機器や資料の扱いの目的がはっきりしているか確認する。
- 主体的な学習となるよう学習活動について吟味する。

5 指導と評価の計画→単元の指導計画です

(1) ○○○ (○時間)	指導項目です	○○○ (○時間)
(2) ○○○		○○○ (○時間)
(3) ○○○		○○○ (○時間)
(4) ○○○		○○○ (○時間)・・・本時
・		○○○ (○時間)
・		
・		
・		
(n) ○○○		

本項
時目をの
含配
む当
指時
導間

指導目標	学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価方法	時間
○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○ 指導者として今日は何を身につけさせたいかを書いてください。 ～させる。 ～興味をもたせる 語尾に注意	○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○ 目標を達成するためにどのような活動が必要なのかを書いてください ～する。～取り組む。 ～考える。 語尾に注意	○○○○○○○○○○○○○○○○○ 生徒の学習活動における評価規準です。内容がより具体的にわかりやすく理解できるよう、具体の学習活動に即した評価規準にしてください。 ただし、生徒の学習活動の具体的な状況例ではありません。	・○○○○○ ・○○○○○ 評価規準にもとづき生徒の学習活動を評価する方法を書いてください。より適切な評価方法にしてください	○
本時を含む指導項目の配当時間に従い、授業ごとに記入してください				本時
				○

II 本時の学習指導

- 1 主 題 ○○○○○
- 2 目 標→単元の目標と関連しているとともに、本時の評価規準がこの中から導かれます
 ○○・・○○
 ○○・・○○。

→本時の目標を達成することが、単元の目標達成の一環となっているかを確認する。
 →本時の目標は、本時の指導内容と対応し、しかも十分なものになっているかを確認する。

- 3 本時の評価規準 →単元の評価規準と関連しているとともに、本時の指導目標とも関連しなければいけません
 →5の指導と評価の計画における学習活動における具体的評価規準 と内容を一致させます。
 →規準の内容が具体的な状況例にならないように気をつけてください

関心・意欲・態度	○○○・・○○○ ○○ 語尾に注意	評価方法 (○○○、○○○)
----------	--	----------------

思考・判断	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○ ○○ 語尾に注意 評価方法 (○○○、○○○)
技能・表現	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○ ○○ 語尾に注意 評価方法 (○○○、○○○)
知識・理解	○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○ ○○ 語尾に注意 評価方法 (○○○、○○○)

4 指導的配慮事項→本時の観点別に配慮事項を記入する

・○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○
○○ 【関心・意欲・態度】

5 準備

○○○、○○○、○○○・・・・・・・・・・・・・・・・

6 展開

学習内容→学習している内容を書いてください

学習活動→学習内容に基づき予想される生徒の取組を書いてください

	学習内容	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体的状況	評価方法等
導入	○○○○○○○	○	○○○○○○○○○○○ ○	○○○○○○○○○○○ ○ 指導上の留意点は指導者がどのようにアプローチしたら生徒が目標を達成しやすくなるか、理解しやすくなるかなどの指導の工夫や支援などを書いてください	【関心・意欲・態度】 ○○○○○○○○○○○ ○ ここでは、本時の評価規準をもとに、生徒がどの程度の状態ならば評価規準を達成してるかを読み取れる具体的な状況を書いてください	○○○○ 本時の評価規準を見取る適切な評価方法を書いてください。必ずしも授業中に判断するとはかぎりません。(授業後のレポートの点検など)

展 開					
ま と め					

- 生徒一人一人の個に応じた指導の場や指導方法を講じる。
- グループ活動では、その前に一人一人が考える場を設定する。
- 学習が遅れがちな生徒だけでなく、上位群の生徒に対する指導の手だても講じる。
- 指導過程の全般を通して生徒の主体的な学習が成立するよう特に留意する。
- 教育機器や教具、資料などの活用にあたっては、それが生徒の興味・関心を高めるものなのか、理解を深めるもののかなど使用目的を確認する。

評価→指導過程の各段階ごとに各段階のねらいに合わせた形成的評価を行う。

- 本時の目標が達成されたか否かを確認する評価を行う。
- 教材の学習終了直前に形成的評価を行う。
- 評価全体を通して、一人一人の生徒の学習に役立つ評価であったかを確認する。

参考

※形成的評価とは・・・

形成的評価とは、教育活動の途中で、教育目標に応じた成果が得られているか適宜把握・判断し、その結果をそれ以降の教育、学習活動の計画に活用していく評価を指す。机間指導における評価はその典型である。

授業の進行中での教師の指導と生徒の学習との改善調整のための評価でもあり、一定の教材（題材、領域）の指導途中で、一つひとつの学習目標、内容について、問答法、観察法、小テスト等を用いて、どの目標は達成し、どの目標は達成していないかについての評価情報を求め、これによって教師の指導と児童生徒の学習とを改善し調整しようとするものである。なお適切な評価を行うには、目標分析が不可欠であることはいうまでもない。目標が明らかになったうえで、その達成が図られているのかを評価していくことが大切である。

形成的評価では、評価情報を教育や学習活動の改善に生かすことが直接的にめざされる。教師にとっては、指導の過程で評価を行い、その情報を指導の改善に生かしていくことになり、「指導と評価の一体化」を具体化する有力な方法になる。学習者にとっては、学習の途上で評価を行うことによって、自分の学習の様子を見つめ、学習計画を修正したり改善したりすることにも役立つものである。